

「光」と「エネルギー」に関する第2回シンポジウム「光機能材料が生み出す新エネルギーと社会 -光・エネルギー研究の最前線2-」を開催

10月23日（金）、本学工学部 E12 講義室に於いて「光」と「エネルギー」に関するシンポジウム「光機能材料が生み出す新エネルギーと社会 -光・エネルギー研究の最前線2-」を開催し、学生や教職員等72名が参加しました。

今回のシンポジウムは、7月17日に行われた第1回シンポジウムで講演予定であった名城大学の上山教授を招いて、前回の続編として開催されたものです。

初めに進士正人工学部長より開会の挨拶が行われました。進士学部長は、青色LEDでのノーベル賞受賞は、基礎科学ではなく工学分野でもノーベル賞が取れることを示したとし、参加者に檄を飛ばされました。その後、名城大学の上山智教授より、「ノーベル賞受賞を導いた窒化物系半導体研究とその最新動向」と題して、赤崎教授等のノーベル賞受賞式の様子を、写真を交えながら臨場感満載で紹介されました。更に、青色LED開発の流れを、赤崎教授のノートの手書きグラフや、自作の実験装置の写真などをふんだんに見せながら、如何にして苦労しながら青色LEDを開発したかを非常にわかり易く説明されました。

続いて、公益財団法人高輝度光科学研究センターの木村滋副部門長より、「高輝度放射光を用いた材料研究の最前線」と題して、SPring8の紹介がありました。高輝度放射光の原理からこれを用いてどのような研究が出来るかをわかり易く解説した後、最近まで世界一の規模を誇っていたSPring8での様々な研究や、各国での同様の研究施設の紹介、更には今後のSPring8 II計画にまで話が及びました。

最後に光エネルギー研究センター長の横川俊哉教授より閉会挨拶が行われ、シンポジウムは盛会裏に終了しました。



進士工学部長 冒頭挨拶



ノーベル賞授賞式を紹介する上山教授



上山教授



木村副部門長



質問に答える木村副部門長